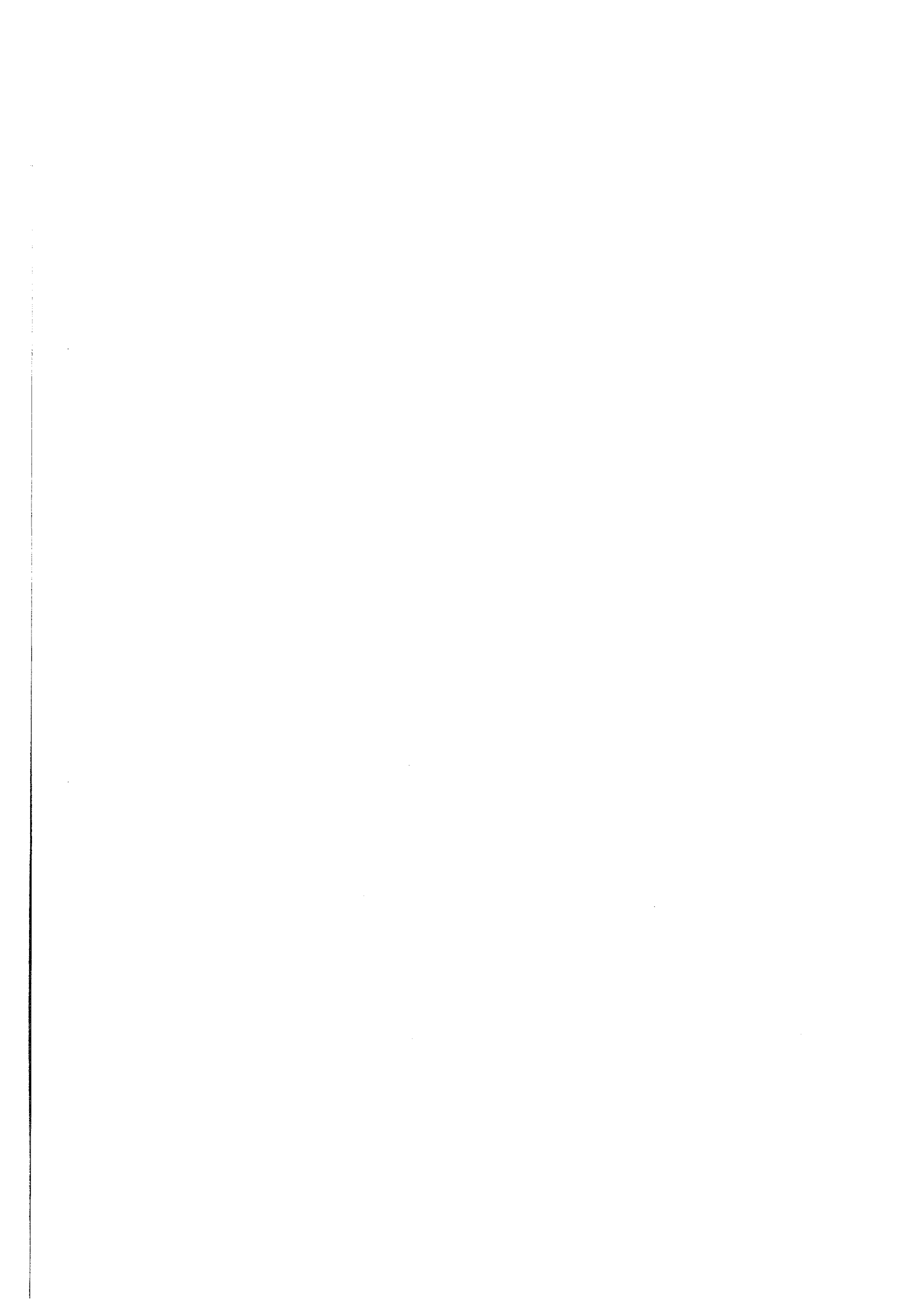


朝鮮半島青銅器時代における玉の出現と展開
—— 早期～前期を中心に ——

ハ 眞晟
(訳：平郡 達哉)

2015年3月
島根考古学会



朝鮮半島青銅器時代における玉の出現と展開

——早期～前期を中心に——

ベ シン
裘 眞晟

(訳：平郡 達哉)

1. はじめに

多様な材料で形作られる装身具は先史時代から現在まで製作・使用されており、今後とも人類の生活とともにあるであろう。玉製装身具もやはり先史時代から世界各地で確認されるが、装いから呪符といった呪術的な道具あるいは身分と関連した威勢品などその意味は単純ではない。朝鮮半島の場合、新石器時代には玉石や骨角で作った様々な装身具が見られるが、青銅器時代の装身具といえば断然飾玉を挙げる事ができ、その社会を象徴する観念的な側面も内包している。

青銅器時代の玉は松菊里段階に墳墓に副葬された飾玉が代表的であるが、最近では住居址からも多く出土しており、前期を含む古い時期の資料も少なくない。これまで青銅器時代の玉の研究が主に松菊里段階の玉に重点が置かれており、本稿では従来注目されていなかった早期～前期の玉を中心に青銅器時代における玉の登場と展開について調べてみよう。

2. 研究史の検討および研究方向

玉製装身具の研究において、まず精巧な美が際立つ曲玉^{訳註(1)}の起源に関心が集まった。新石器時代に見られる動物の歯牙に穴をあけた垂飾品に由来するという見解(西谷1982)、曲玉が胎児の形と似ていることから多産を意味するとした見解(李1987)、月崇拜と関連した原始宗教的あるいは呪術的な呪符として着用したという見解(金1972、韓1976)があった。さらに先史時代から三国時代までの曲玉に対する分類と変遷などを検討すると共に成分分析を通して原石の産地を明らかにしようとする研究も試みられ(崔1986)、曲玉だけではなく管玉と環玉も含めて玉製装身具の特徴と変遷が一般的に整理されてきた(李1991、盧1997)⁽¹⁾。

このように玉の研究は曲玉を中心にして先史時代から三国時代まで包括して起源をはじめとして名称・型式・変遷などが検討および整理されてきた。近年にもこのような通時代的整理(庄田2006a)と先史時代および細形銅剣期を中心とした飾玉の型式・変遷・起源問題などについて言及され続けているが(大坪2001、李2002)、最近では青銅器時代の飾玉を対象に具体的な研究が試みられはじめた。その方向性は製作技法と製作体制および流通などに対する詳細なアプローチといえる。

製作技法について李相吉は昌原徳川里2号墓から出土した管玉165点の表面と穿孔痕を詳細に観察し、「分割-調整-裁断-穿孔-磨研」という製作工程を想定した。また、シリコンを利用して穿孔の状態を正確に把握し、管玉が規格化されていた可能性もあるとした(李2006)。続いて庄田慎矢も麻田里と寛倉里遺跡の管玉を材料に李の研究と類似する方法で製作技法について言及し、地域別の管玉の規格差を指摘した(庄田2006b)。

そして、庄田慎矢は晋州大坪里遺跡出土の天河石製玉を通して集落内の分業について言及した。大坪里遺跡を大きく西集落と東集落に分けた後、両集落での玉の未完成品・完成品・砥石・穿孔具など玉製作と関わる遺物の分布を対照した。その結果、西集落では穿孔具や研磨材をはじめとして原石や破片の量が多い反面、完成品は東集落に偏在しているという特徴を示すことが分かった。したがって、大坪里西集落が製作を担当したとするならば、東集落は加工された玉を外部に流通させる役目を担ったものとみて共同体内での分業を想定した。そして、このような攻玉活動について専門化した体制というよりは付加的な生産活動と理解している(庄田2005)。

また、飾玉類製作の中心地と流通範囲を論じた研究もある。崔鍾圭はまず飾玉の製作工具が出土した大坪里遺跡群と黙谷里遺跡一帯を慶尚南道西部地域と全羅南道東部地域一帯における天河石製飾玉類の製作地とみた。そして、大坪里遺跡群を中心にして慶尚南道西部地域と全羅南道東部地域での天河石製飾玉の分布を通して半径40～60kmの距離を主分布範囲と把握して、これを松菊里段階における朝鮮半島南海岸中部地域の飾玉類の流通範囲と推定した（崔2000）。

上記のように青銅器時代飾玉の研究において主要な研究対象は松菊里段階の資料であった。それは前期の資料に比べて量的にも圧倒的に多くて定形性が高く、製作と関連した資料も後期の遺跡で確認されていたためである。前期の飾玉は資料紹介および分類において一部言及されたもの以外では、華城泉川里7号住居址出土の環玉を報告しながら中部地域における前期の玉を検討した研究（李亨2006）がある程度で、それは曲玉・管玉・小環玉など松菊里段階の飾玉類が前期から中部地域に揃っていたことを確認する内容であった。

一方、中国東北地域－朝鮮半島－九州地域にいたる東北アジア石製装身具の様相把握と相互比較のための基礎的資料集成がなされている（大坪2003a）。そのような作業は今後、朝鮮半島青銅器時代飾玉の出現と意味などを把握するうえで有用な参照資料として活用されるものと期待されるが、ここでも朝鮮半島南部における早期～前期の資料は極めて少ない。この資料集以後に出土・報告された早期～前期の資料が相当数あり、これに対する整理と検討を優先的に行ってこそ松菊里段階の玉と共に朝鮮半島青銅器時代の玉に対する全体的な様相を描くことができるのではないかと考える。

3. 早期～前期の飾玉とその特徴

ここでは2013年の報告書も一部含めて2012年まで報告された資料を中心に早期～前期の飾玉類を集成してみた。漏れなく集成しようとしたが、2000年代に入って刊行された膨大な報告書を完全に検索するには時間的な限界もあり、一個人の力量では手に負えない作業であった。これまでいくつかの代表的な資料のみで古い時期の飾玉を論じられてきたが、近年には早期～前期の新資料が多く存在することから可能な限り集成しようとした。ここに含めることのできなかつた資料があれば諸賢の了解を望むところである。

表1 早期（～前期前半）の飾玉出土遺構と共伴遺物

連番	飾玉出土遺構	平面	出土遺物			参考文献
			玉	土器	石器	
1	洪川 外三浦里 3号住居址	長方形	長方形玉 1	刻目・節状突帯文土器	無茎式石鏃、櫛形石包丁、未完成石器など	江原文化財研究所 2008
2	旌善 アウラジ 1号住居址	長方形	環玉 1	刻目突帯文土器、二重口縁土器、赤色磨研台附土器など	無茎式石鏃、長方形石包丁、石製魚網錘、石製紡錘車、円盤形石器など	江原文化財研究所 2011
3	旌善 アウラジ 6号住居址	長方形	環玉 1、 未完成 3、 半円形 石製品 1	刻目突帯文土器、口唇刻目文土器、赤色磨研台附土器など	無茎式石鏃、櫛形・長方形石包丁、扁平片刃石斧、石製魚網錘、石製紡錘車など	江原文化財研究所 2011
4	燕岐 大坪里 B地点KC-016号	長方形	環玉 1	二重口縁土器		韓国考古環境研究所 2012
5	燕岐 大坪里 C地点26号住居址	方形	滑石製装身具 1	長頸壺		忠清南道歴史文化研究院 2012
6	燕岐 大坪里 C地点22号住居址	長方形	未完成 1	二重口縁土器など	扁平片刃石斧、蛤刃石斧、石包丁、土製紡錘車など	忠清南道歴史文化研究院 2012
7	河南 漢沙里 A-1号住居址	方形	曲玉 1	刻目突帯文土器	無茎式石鏃、両刃石包丁など	ソウル大学校博物館 1994

8	河南 漢沙里 A-11号貯藏穴		長方形玉 1	刻目突帯文土器		ソウル大学校博物館1994
9	晋州 平居洞 3-2 地区前期1号住居址	長方形	曲玉 1、環玉 2	四耳附土器、二重口縁土器、長頸壺など	舟形・魚形石包丁、扁平片刃石斧、石製魚網錘、石製紡錘車など	慶南文化財研究院 2012
10	晋州 平居洞 3-1 地区3号住居址	長方形	(管玉 2)	二重口縁土器、雷文土器、刻目突帯文土器(内部収拾)	無茎式石鏃、長方形石包丁、石製魚網錘など	慶南発展研究院 歴史文化センター 2011
11	晋州 平居洞 3-1 地区7号住居址	長方形	未完成、環玉 1、玉片 2	二重口縁(刻目文)土器、壺形土器、節状突帯文土器、櫛文土器(上部)など	無茎式石鏃、二段茎式石鏃、長方形石包丁、蛤刃石斧、扁平片刃石斧、嘴形石器、石製・土製魚網錘、穿孔具一括など	
12	晋州 平居洞 4-1 地区1号住居址	(長) 方形	環玉 2	刻目突帯文土器、口唇刻目文土器、赤色磨研長頸壺など	扁平片刃石斧、舟形石包丁、石製紡錘車、有茎式石鏃など	慶南発展研究院 歴史文化センター 2012

表2 前期の飾玉出土遺構と共伴遺物

連番	飾玉出土遺構	平面	出土遺物			参考文献
			玉	土器	石器	
13	東海 智興洞 3号住居址	細長方形	曲玉 1	孔列文土器	一段茎式石鏃、蛤刃石斧、嘴形石器、石製紡錘車など	濊貊文化財研究院 2012
14	春川 拳頭里 12号住居址	細長方形	管玉 1	孔列文土器	二段茎式石鏃、有溝柄式石剣、舟形石包丁など	江原文化財研究所 2003
15	春川 牛頭洞 28号住居址		半円形玉 1	孔列文土器		江原文化財研究所 2011
16	春川 牛頭洞 32号住居址	方形	未完成 1	刻目突帯文土器	土製紡錘車、砥石など	江原文化財研究所 2011
17	春川 牛頭洞 33号住居址	(細) 長方形	管玉 2	壺形土器	銅鏃、無茎式石鏃、石鏃など	江原文化財研究所 2011
18	春川 牛頭洞 石棺墓		曲玉 1		無茎式石鏃、銅剣、銅鏃	江原文化財研究所 2011
19	春川 新梅大橋敷地 21号住居址	(細) 長方形	曲玉 1	口唇刻目+孔列文土器、口唇刻目文土器、孔列文土器、口唇刻目文+X字文土器、台附土器など	無茎式石鏃、舟形石包丁、蛤刃石斧、扁平片刃石斧など	翰林大学校博物館 2003
20	春川 新梅大橋敷地 26号住居址	(細) 長方形	未完成 2	口唇刻目+孔列文土器、口唇刻目文土器、孔列文土器、赤色磨研鉢	二段茎式石鏃、舟形石包丁	翰林大学校博物館 2003
21	寧越 酒泉里 2号住居址	長方形	未完成 3、管玉形石製品 1	口唇刻目文土器、口唇刻目+短斜線文土器など	二段茎式石鏃、一段茎式石鏃、扁平片刃石斧、東北型石包丁、石製紡錘車、魚網錘など	濊貊文化財研究院 2010
22	寧越 酒泉里 6号住居址	長方形	環玉 1	口唇刻目+孔列文土器、台附土器など	無茎式・二段茎式石鏃、東北型石包丁、扁平片刃石斧、舟形石包丁など	濊貊文化財研究院 2010
23	寧越 酒泉里 7号住居址	長方形	玉片 3	口唇刻目文土器、口唇刻目+孔列文土器、孔列文土器、台附土器、長頸壺など	無茎式・二段茎式石鏃、二段柄式石剣、舟形石包丁、蛤刃石斧、環状石器など	濊貊文化財研究院 2010
24	寧越 酒泉里 8号住居址	細長方形	曲玉 1、環玉 1	口唇刻目+孔列文土器、孔列文土器、口唇刻目文土器など	無茎式・一段茎式石鏃、石槍、扁平片刃石斧など	濊貊文化財研究院 2010

25	寧越 酒泉里 11号住居址	長方形	曲玉 1		石槍	濊貊文化財研究院 2010
26	寧越 酒泉里 14号住居址	方形	未完成 1	口唇刻目文土器	有茎式石鏃	濊貊文化財研究院 2010
27	寧越 酒泉里 17号住居址		未完成 2	節状突帯文土器、突帯 文土器	未完成石槍	濊貊文化財研究院 2010
28	華川 原川里 28号住居址	長方形	管玉 1		未完成石器	濊貊文化財研究院 2013a
29	華川 居礼里 20号住居址	細長方形	管玉 未成品 1	節状突帯文土器	打製石器、扁平両刃石 斧、有茎式石鏃、石製 紡錘車など	濊貊文化財研究院 2013b
30	華川 居礼里 22号住居址		半円形玉 1	鉢形土器	無茎式石鏃、片刃石斧、 嘴形石器	濊貊文化財研究院 2013b
31	華川 居礼里 27号住居址	細長方形	管玉 1	孔列文土器	無茎式石鏃、一段茎式 石鏃、扁平片刃石斧、 舟形石包丁、石製紡錘 車、環状石器など	濊貊文化財研究院 2013b
32	華川 龍岩里 3号住居址	細長方形	管玉 1	孔列文土器	一段茎式石鏃、長舟形 石包丁、扁平両刃石斧、 扁平片刃石斧、石製紡 錘車など	江原文化財研究所 2007
33	華川 龍岩里 88号住居址	長方形	長方形玉 1	孔列文土器など	無茎式石鏃、一段茎式 石鏃、扁平片刃石斧、 石製紡錘車など	江原文化財研究所 2007
34	華川 龍岩里 91号住居址	長方形	半円形玉 1	口唇刻目+孔列文土器 など	蛤刃石斧、石槍未成品	江原文化財研究所 2007
35	洪川 哲亭里 A-6号周溝墓		環玉 1			江原文化財研究所 2010
36	洪川 哲亭里 C-1号住居址	長方形	石環(?) 1	刻目突帯文土器、節状 突帯文土器、二重口縁 土器	無茎式石鏃、長方形石 包丁、蛤刃石斧、扁平 片刃石斧、石製魚網錘、 貝釧など	江原文化財研究所 2010
37	汶山 堂洞里 4地点41号住居址	細長方形	管玉 1	孔列文土器、壺形土器	蛤刃石斧、長舟形石包 丁、円盤形石器など	京畿文化財研究院 2009
38	汶山 堂洞里 4地点45号住居址	長方形	半円形玉 1、 管玉 1	孔列文土器	魚形石包丁、舟形石包 丁、扁平片刃石斧、石 製紡錘車	京畿文化財研究院 2009
39	ソウル 高德洞D 区域 4号住居址	長方形	管形玉 1	孔列文土器	磨棒	慶熙大学校中央博 物館2012
40	廣州 駅洞墳墓		環玉 2		遼寧式銅劍、無茎式石 鏃、異形銅器	ハノル文化遺産研 究院2010
41	河南 漢沙里 1号 住居址 (慶熙大)	長方形	未完成 1	口唇刻目+孔列文土器、 孔列文土器など	打製石斧、無茎式石鏃、 石製紡錘車など	漢沙里先史遺跡発 掘調査団1994
42	河南 望月洞 1号住居址	長方形	管玉 1	口唇刻目+孔列文土器、 孔列文土器	二段茎式石鏃など	世宗大学校博物館 2004
43	義王 二洞 10号住居址	長方形	未完成 2	口唇刻目+孔列文土器、 孔列文土器		檀国大学校埋蔵文 化財研究所2007
44	平澤 土津里 10号住居址	長方形	環玉 1	口唇刻目文土器	石槍、砥石	畿甸文化財研究院 2006
45	華城 泉川里 7号住居址	細長方形	環玉 1	口唇刻目+孔列文土器、 口唇刻目文土器、孔列 文土器など	無茎式・二段茎式・一 段茎式石鏃、二段柄式 石劍、舟形・魚形石包 丁、星形石器、蛤刃石 斧、扁平片刃石斧など	韓神大学校博物館 2006
46	富川 古康洞 2号住居址	長方形	破損品 1		二段茎式・一段茎式石 鏃、蛤刃石斧、扁平片 刃石斧	漢陽大学校博物 館・文化人類学科 1996

47	水原 金谷洞 3号住居址	長方形	管玉 1	口唇刻目+孔列文土器、 口唇刻目文土器	二段茎式石鏃、柱状片 刃石斧、舟形石包丁、 蛤刃石斧、扁平片刃石 斧、石製紡錘車	京畿文化財研究院 2011
48	水原 金谷洞 18号住居址	細長方形	管玉 1	口唇刻目+孔列文土器、 口唇刻目文土器、孔列 文土器	二段柄式石劍、柱状片 刃石斧、舟形石包丁、 蛤刃石斧、扁平片刃石 斧、石製紡錘車	京畿文化財研究院 2011
49	忠州 早洞里 6号住居址	不定形	半円形玉 1	孔列文土器、赤色磨研 壺など	一段茎式石鏃、二段柄 式石劍、舟形石包丁、 未完成石器など	忠北大学校博物館 2001
50	忠州 早洞里 7号住居址	長方形	半円形玉 3、 環玉 未完成品 5	孔列文土器、赤色磨研壺	無茎式石鏃、一段茎式 石鏃、扁平片刃石斧、 石製紡錘車、土製・石 製魚網錘など	忠北大学校博物館 2001
51	忠州 早洞里 9号住居址	長方形	半環形玉 1	赤色磨研台附土器、赤 色磨研横帯区画文土器、 孔列文土器など	無茎式石鏃、石製紡錘 車、石斧未完成品など	忠北大学校博物館 2001
52	忠州 早洞里 3号炉址	不定形	半円形玉 1	孔列文土器、赤色磨研壺	石槍(?)、円盤形石器 など	忠北大学校博物館 2001
53	舒川 烏石里 周溝墓		管玉11		二段茎式石鏃、遼寧式 銅劍	忠清文化財研究院 2008
54	洪城 南長里 石棺墓		管玉 8			忠清文化財研究院 2010
55	清州 飛下洞 8号住居址	長方形	管形玉 1	可楽洞式土器	無茎式石鏃、二段柄式 石劍、舟形石包丁未完 成品など	中原文化財研究院 2008
56	燕岐 松潭里 28地点51号住居址	細長方形	管形玉 1		無茎式石鏃、舟形石包 丁、土製魚網錘など	韓国考古環境研究 所2010
57	牙山 鳴岩里 12地点21号住居址	細長方形	環玉形 石製品 1	口唇刻目+孔列文土器、 口唇刻目文土器など	磨棒、土製紡錘車など	忠清文化財研究院 2011
58	大田 龍山洞 2地区4号住居址	長方形	管形 石製品 1	可楽洞式土器	有血溝石劍片、有茎式 石鏃、扁平片刃石斧、 石製魚網錘	中央文化財研究院 2008
59	天安 龍井里 I-2 地区3号住居址	細長方形	管形玉 1		二段茎式石鏃、蛤刃石 斧など	忠清文化財研究院 2008
60	天安 清堂洞 2号住居址	長方形	環玉 1	口唇刻目+孔列文土器、 口唇刻目文土器	二段茎式石鏃	国立中央博物館 1995
61	金泉 松竹里 6号住居址	長方形	環玉 3、 未完成 1	刻目突帯文土器、節状 突帯文土器など	無茎式石鏃、二段茎式 石鏃、長方形石包丁、 扁平片刃石斧、両刃石 斧、土製紡錘車、土製 魚網錘、有溝砥石など	啓明大学校行素博 物館2007
62	大邱 松峴洞 2号住居址	長方形	管形玉 1		二段茎式石鏃、扁平片 刃石斧、舟形・櫛形・ 長方形石包丁	東国大学校慶州 キャンパス博物館 2002
63	清道 陳羅里 54号住居址	(細) 長方形	環玉 1	口唇刻目文土器(堆積層)	環状石器、土製紡錘車 など	嶺南文化財研究院 2005
64	慶州 月山里山 137-1 石棺墓		環玉 4		無茎式石鏃、二段柄式 石劍	嶺南文化財研究院 2005
65	慶州 忠孝洞 4号住居址	長方形	管玉 1	鉢形・壺形土器	舟形石包丁、石球、未 完成石器など	嶺南文化財研究院 2005
66	慶州 月山里 A-6号住居址	細長方形	管玉 1	口唇刻目+斜線文土器+ (二重口縁) 土器、孔 列文土器	無茎式石鏃、舟形・魚形 石包丁、扁平片刃石斧、 蛤刃石斧、環状石器	国立慶州文化財研 究所2003
67	慶州 德泉里 19号住居址		管玉 1	鉢形土器	未完成石器	嶺南文化財研究院 2005

68	慶州 汶山里 D区域墳墓		環玉 1	赤色磨研壺		新羅文化遺産研究院 2011
69	慶州 隍城洞 II-タ-1号住居址	細長方形	曲玉 1	孔列文+刻目文土器、 孔列文土器、台附土器		啓明大学校博物館 2000
70	浦項 大谷里 4号住居址	長方形	環玉 1、 管玉 1		石剣片	聖林文化財研究院 2011
71	蔚州 九英里 V-1 地区17号住居址	長方形	管形玉 1	赤色磨研壺、孔列文土 器、口唇刻目文土器、 二重口縁刻目文土器	舟形石包丁、蛤刃石斧 など	蔚山発展研究院文 化財センター 2007
72	蔚山 蓮岩洞サン ソン3号住居址	長方形	管玉形 石器 1	孔列文土器	有茎式石鏃、舟形石包 丁など	蔚山文化財研究院 2004
73	山清 挹清亭 4号竪穴	(長) 方形	玉原石	口唇刻目+二重口縁+孔 列文+刻目文土器、孔 列文土器	蛤刃石斧、土製紡錘車、 未完成石器など	ハンギョレ文化財 研究院2012
74	晋州 草田洞 42号住居址	長方形	環玉 1	口唇刻目+二重口縁+刻 目文土器、二重口縁+ 刻目文土器、口唇刻目 +二重口縁土器、口唇 刻目文土器、孔列文土 器など	無茎式石鏃、長方形石 包丁、蛤刃石斧、扁平 片刃石斧、石製紡錘車、 環状石器など	韓国文物研究院 2012
75	晋州 大坪里玉房 5 地区C-2号住居址	細長方形	曲玉 1	孔列文土器、二重口縁 土器など	有茎式石鏃、(長) 舟 形石包丁、蛤刃石斧な ど	李亨求2001
76	晋州 大坪里玉房 5 地区C-4号住居址	細長方形	曲玉 1、 管玉 1、 環玉 4、 玉片	口唇刻目+孔列+二重口 縁+刻目文土器、孔列 文土器など	二段茎式石鏃、石槍、 舟形石包丁、扁平片刃 石斧、蛤刃石斧、未完 成石器など	李亨求2001
77	泗川 梨琴洞 51号墓		環玉 1	口唇刻目文土器、赤色 磨研壺	有茎式石剣、無茎式・ 二段茎式石鏃	慶南考古学研究所 2003
78	固城 頭湖里 2号墓		環玉 1	茄子文土器片		慶南考古学研究所 2000
79	羅州 長洞里墳墓		環玉 2	茄子文土器片	無茎式石鏃	全南文化財研究院 2011

表1・2は全て遺構内から出土した事例である。地表採集や収拾品はもちろん遺構内で出土したとしても遺構の平面形態や共伴遺物などから時期を把握しにくいものは除外し、早期～前期であることがある程度確かな資料のみを選別したものである。

近年、刻目突帯文土器が出土する住居址で玉製装身具が多数確認されている。それ以前にも刻目突帯文土器住居址である漢沙里A-1号で玉製装身具が出土していたが、これのみで青銅器時代早期から飾玉が存在していたと断定しがたい。なぜならば当時はこのような事例がなく、小さく軽い玉の特性上、後の時期の混入品である可能性も排除できないためである。

しかし、表1・2のように最近多数の遺跡で古い時期の資料が確認されており、青銅器時代の玉製装身具は後期のみならず早期～前期にも広く製作されたことが明らかになっている。特に漢沙里・外三浦里・アウラジでは石床囲石式炉址が設置された(長)方形住居址で刻目突帯文土器とともに曲玉や環玉が共伴している。燕岐大坪里と晋州平居洞でも飾玉が出土している。燕岐大坪里B・C地点の突帯文土器と二重口縁土器出土住居址は報告書の考察によると早期あるいは前期前半に該当し、晋州平居洞遺跡の該当遺構は前期前半に編年されている。

表2は青銅器時代後期以前の飾玉のうち早期(～前期前半)であることが明らかなものを除いた前期の資料である。該当遺構の共伴遺物が少ない場合、飾玉のみでは細かな編年が難しいため前期の前半か後半か判断しにくい点もあるが、住居址の形態や共伴土器に基づくと前期後半の資料が多いようである。

(1) 早期（～前期前半）の玉

早期～前期前半の玉製装身具は全て天河石製で、大きく曲玉・丸玉・長方形玉に区分される（図1）。曲玉は早期の漢沙里A-1号（図1-7）と前期前半の平居洞2地区出土品（図1-8）がある。両者は長さがおおむね同じであるが、全体的な形態および楕円形に近い分厚い断面などから平居洞出土品の定形性が高く漢沙里出土品との時期差が感じられる。次に球玉・小玉・クスロク（구슬옥）とも呼ばれる環玉は早期と前期前半の遺構で出土し、直径0.8～1.0cmで地域を問わず規格がほぼ類似することが分かる（図1-1～6）。そして早期の漢沙里と外三浦里では長方形玉が出土している（図1-9・10）。2点とも孔の位置や孔が無い下側の幅が若干広い点で類似する形態をなしており、規格も長さ2.4cmと2.7cmでほぼ同じである。

燕岐大坪里・晋州平居洞・旌善アウラジなどで数点の未完成玉製品と玉の原石片が出土しており、この時点ですでに各集落において玉製装身具を製作していたことが分かる。また、玉製装身具を模倣したものかはわからないが、半環形石製品（図1-11）がアウラジ遺跡で、両端に各1つずつ孔をあけた滑石製装身具（図1-14）が燕岐大坪里で確認されている。したがって、青銅器時代の古い時期から玉製・石製の装身具が比較的活発に製作・使用されていたといえるだろう。

一方、前期前半に編年されている晋州平居洞3-1地区3号住居址では碧玉製管玉が2点出土した。しかし、2点とも住居址床面ではなく内部収拾品であり、表1で管玉の唯一の事例である点などから早期～前期前半に管玉の存在を確信することは難しい。

(2) 前期の玉

前期の玉は大きく曲玉・丸玉・管玉・管形玉・半円形玉・長方形玉に区分でき、これ以外にも多数の未完成品をはじめ半環形玉と半環形石製品も一部見られる（図2～5）。

前期の曲玉は曲玉Aと曲玉Bの2つに大別できる。曲玉Aは原始形（大坪2003）・原始曲玉形（崔1986）・三日月形（廬1997）などに分類されたもので（図3-1～4）、図3-1～3は早期の漢沙里出土品（図1-7）ともつながるような型式である。曲玉Bは孔を1つあける点以外に両端部の形態が類似し（図2-9、図3-5・6）、曲玉Aより定形化した姿を見せる。これは半円形玉の直線部中間の挟りを大きく入れたようにも見えるが、半円形玉（図5-9～17）とは明らかに区分され、曲玉に分類できるものである。曲玉Aは全て住居址から出土しているが、定形化し洗練された形態の曲玉Bは墳墓からも出土する点で（図2-9）、両者の意味になんらかの違いがあった可能性もあろう。後期の松菊里石棺墓（図8-1・2）および盈徳烏浦洞出土品（図8-4・5）のような青銅器時代の代表的な曲玉は前期の曲玉B系列に属するものであろう。

環玉は住居址と墳墓で多数出土しており未完成品も多く、早期から後期の松菊里段階まで大きな形態変化なしに持続する。曲玉や管玉は松菊里以後の粘土帯土器段階にも続くが、このような天河石製の環玉は粘土帯土器段階にはあまり見られないため青銅器時代に限定されるものといえよう。ただ、早期～前期前半に比べて前期の環玉は規格が多様であるが、墳墓では比較的大型のものも出土しており（図2-6・8）、住居址では環玉を模倣した石製品（図3-19）も確認される。

前期の管玉は両方から穿孔して貫通させたもので松菊里段階の管玉のような典型的な形態である。墳墓出土品（図2-10～28）に比べて住居址出土品（図4）は長さ2cm未満から10cm以上までと規格に幅がある。長さ3cm以上を大型品に分類すると（李1991）、すでに前期に大型の管玉が住居址から出土することが分かり、これを模倣したものと見られる石製品（図4-14）もある。後期の代表的な大型管玉としては松菊里石棺墓の長さ4.7cm、晋州大坪里2号墓の12.2cmになるものがあるが、前期後半の水原金谷洞出土品（図4-16・17）が長さ8.6cmおよび7.6cmで松菊里出土品より大きく、汶山堂洞里出土品（図4-18）は破損品であるが長さ11.8cmになり元々は晋州大坪里の管玉より大きかったものと考えられる。前期に該当する黄海道白川郡大雅里および新坪郡仙岩里の墳墓でも長さ6.0cmと4.6cmの大型品が出土することを見る

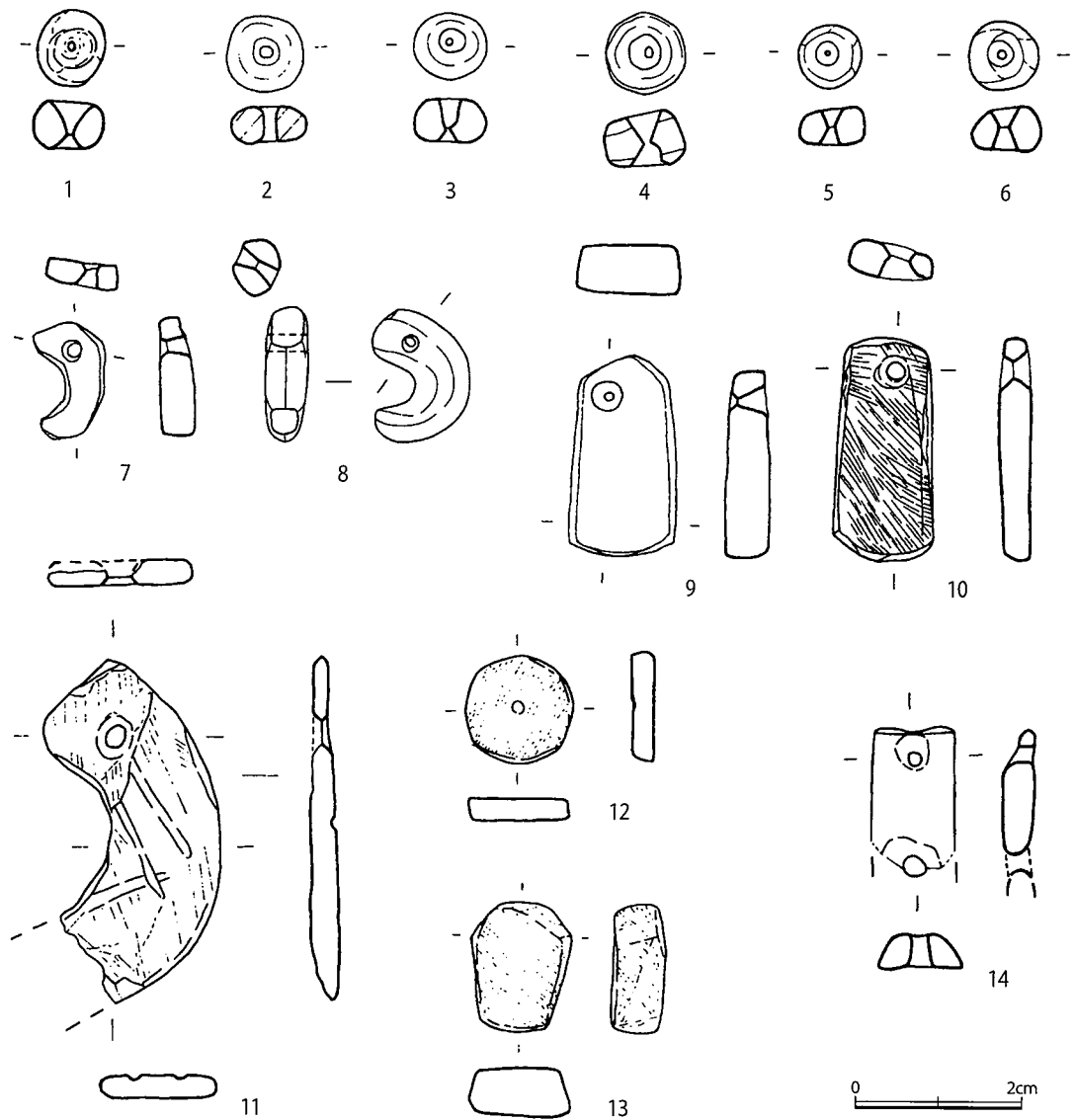


図1 早期～前期前半の飾玉（11・14は石製）

1. 旌善アウラジ1号住、2. 燕岐大坪里B地点16号住、3・4・8. 晋州平居洞3-2地区前期1号住、5・6. 晋州平居洞4-1地区1号住、7. 河南漢沙里A-1号住、9. 河南漢沙里A-11号貯蔵穴、10. 洪川外三浦里3号住、11～13. 旌善アウラジ6号住、14. 燕岐大坪里C地点26号住

と、青銅器時代において権威あるいは階層の象徴としても理解されている大型の管玉は前期から登場したことが明らかである。

このような青銅器時代の典型的な管玉以外に多少特異な形態として管形玉製品といえるものがある。既存の研究では言及されてこなかったもので大部分近年に出土した新資料である。一般的な管玉のように小さく丸い柱形に作った後、中央部を貫通させず両端から身部側に短く傾くように穿孔したものが各地で出土している（図5-1～6）。長さはおおよそ3.0cm前後と規格においても大きな違いが無く、蠟石で製作されたものは長さ4.4cmでやや大きい（図5-5）。現時点においては全て住居址で出土しており、首飾りとして使われた可能性も考えられるが、管玉のように孔が繋がらず、曲玉や環玉のように一孔で吊り下げた一般的な首飾りの姿を想像するのも難しい。天安龍井里出土品（図5-3）には一方の端に横沈線が巡らされており、これは使用と関連した痕跡である可能性があり、蠟石製の龍山洞出土品（図5-5）には両孔につながる長い挟りが身部にあり、一本の紐が両孔を通った姿を推定してみるのみである。この名

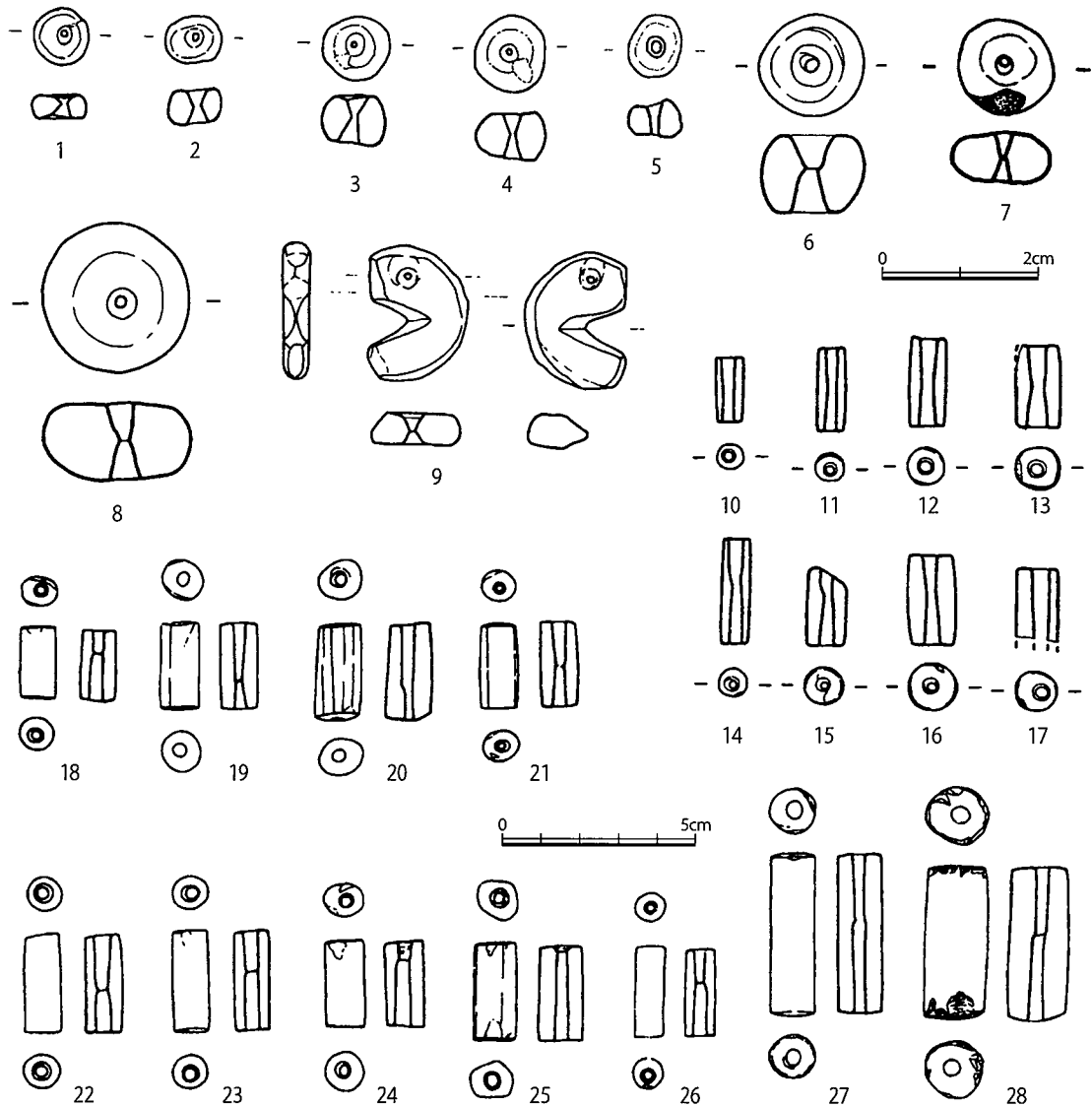


図2 前期墳墓出土飾玉

1～4. 慶州月山里山137-1石棺墓、5. 慶州汶山里D区域、6. 洪川哲亭里A-6号周溝墓、7. 固城頭湖里2号墓、8. 泗川梨琴洞51号墓、9. 春川牛頭洞石棺墓、10～17. 洪城南長里石棺墓、18～28. 舒川烏石里周溝墓

称は形態から兩孔円筒形玉と呼ぶこともできるが、管玉との名称上、連係性を勘案してひとまずここでは臨時的な名称として「管形玉A」と名付ける。これは現時点では後期には確認されず、北朝鮮地域や中国東北地域にも見られず朝鮮半島南部地域における前期の飾玉の一個性を示す資料と判断される⁽²⁾。

「管形玉B」も暫定的な名称で一般的な管玉より中央の穿孔部が広く、特に身部中央部にも1孔がある特異な形態である(図5-7・8)。蔚山九英里と華川原川里遺跡で出土しており地域性ともしがたい。やはり具体的な使用法は不明であり、大部分の管玉が碧玉製であるのに対し、これは天河石で製作されている。

次に半円形玉(半月形玉)は三角形に近い半円形の形態を呈し、直線部に挟りがない半円形玉A(図5-9～13)と挟りがある半円形玉B(図5-14～17)の2つに大別される。半円形玉A・Bとも一方に孔が1つ偏在しており、垂飾として用いられたのであろう。

一方、半環形の形態を呈するものもある。寧越酒泉里11号住居址出土品は一方の孔部分が欠損しており全体の形態が不明であるが(図5-19)、曲玉Bに属する可能性もある。これ以外にも半環形のものが数点

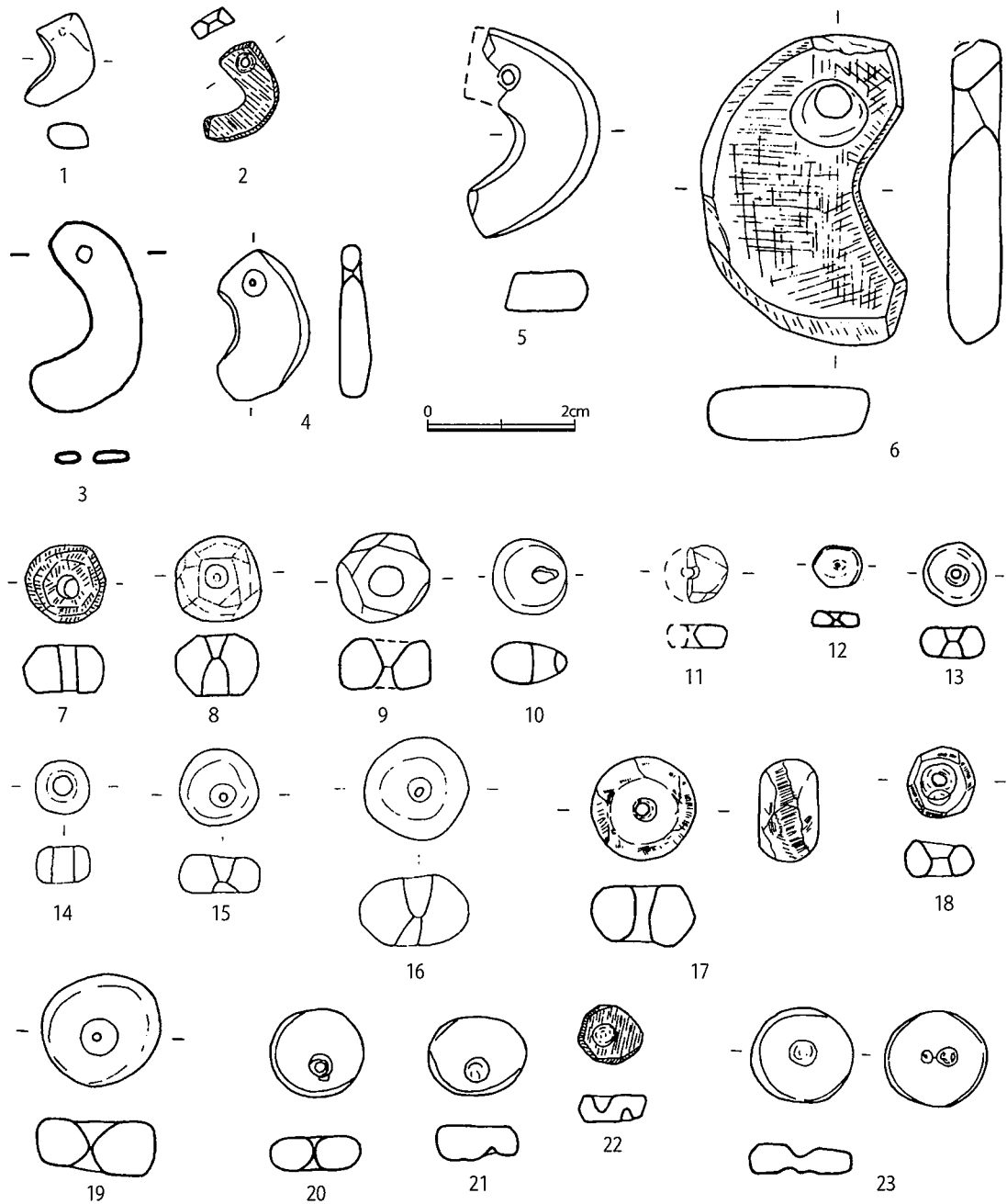


図3 前期の曲玉・環玉（19は石製）

1・9. 晋州大坪里玉房5地区C-4号住、2・22. 寧越酒泉里8号住、3. 晋州大坪里玉房5地区C-2号住、4. 春川新梅大橋敷地21号住、5. 慶州隍城洞Ⅱ-タ-1号住、6. 東海智興洞3号住、7. 寧越酒泉里6号住、8. 浦項大谷里4号住、10. 清道陳羅里54号住、11. 晋州草田洞42号住、12. 平澤土津里10号住、13. 天安清堂洞2号住、14~16. 金泉松竹里6号住、17・18. 蔚山九英里V-1地区17号住、19. 牙山鳴岩里12地点21号住、20. 華城泉川里7号住、21. 春川新梅大橋敷地26号住、23. 忠州早洞里7号住

あるが主に石製品であり（図5-20・21）、洪川哲亭里C-1号住居址では釧（図5-22）と半環形石製品（図5-21）が共に出土した。半環ではなく円をなすものであれば釧として使われた可能性もあるが、孔がある半環形の製品は垂飾として使われたであろう。

長方形玉は華川龍岩里出土品の1点がある（図5-18）。早期の長方形玉は孔の反対側の左右幅が若干広いのに対し（図1-9・10）、龍岩里出土品はむしろ幅が狭く全体的な形態でも定形性が落ちる。現時点では羨沙里・外三浦里の長方形玉の延長線上にあるものと推定できよう。

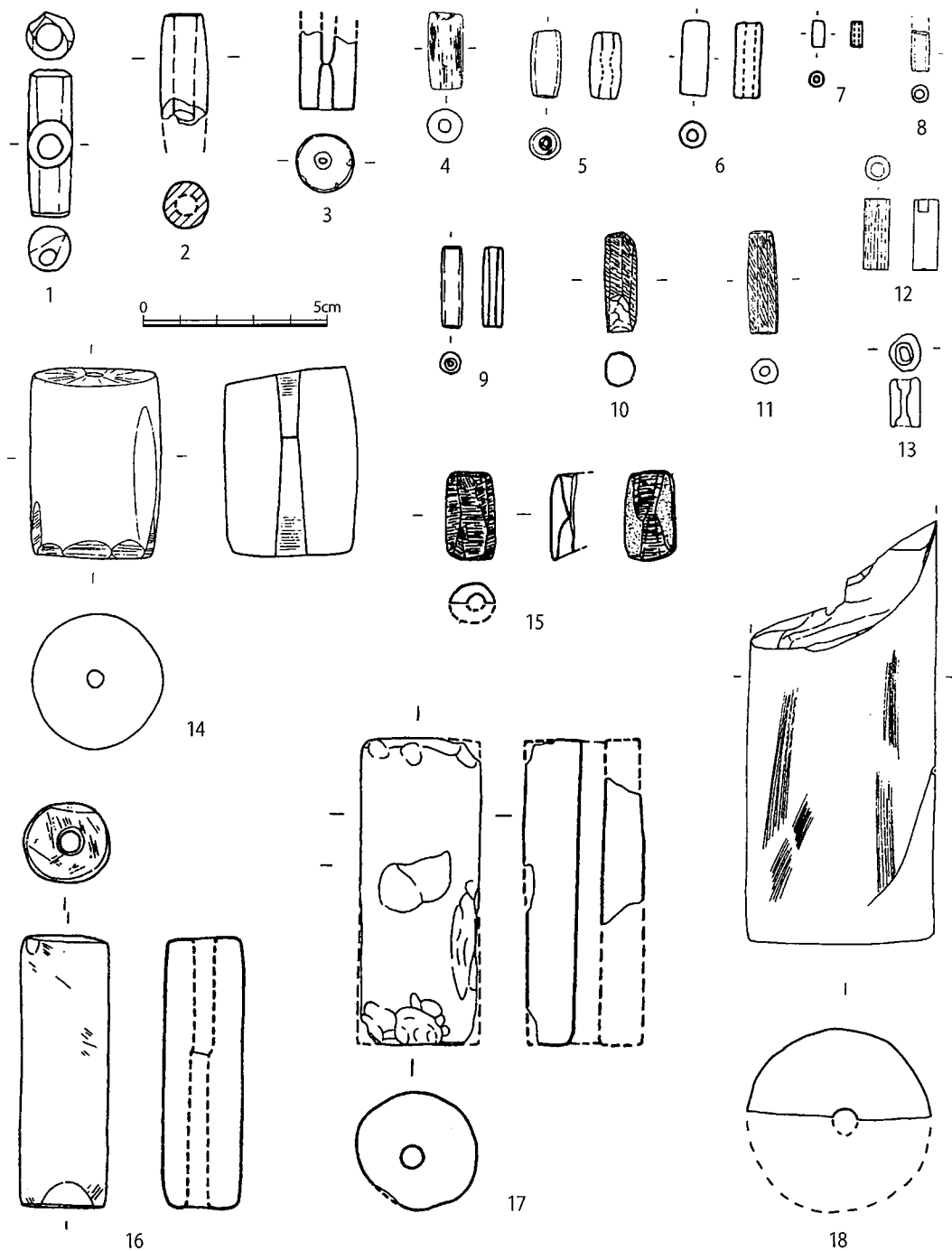


図4 前期の管玉 (14・15は石製)

1. 春川拳頭里12号住、2. 慶州月山里A-6号住、3. 華川龍岩里3号住、4. 汝山堂洞里4-45号住、5. 慶州徳泉里19号住、6・7. 春川牛頭洞33号住、8. 華川居礼里27号住、9. 慶州忠孝洞山156 4号住、10. 寧越酒泉里14号住、11. 華川居礼里20号住、12. 浦項大谷里4号住、13. 晋州大坪里玉房5地区C-4号住、14. 蔚山蓮岩洞サンソン3号住、15. 寧越酒泉里2号住、16. 水原金谷洞18号住、17. 水原金谷洞3号住、18. 汝山堂洞里4-41号住

4. 朝鮮半島青銅器時代における玉の展開

以上のように青銅器時代早期～前期の飾玉の現況と特徴を調べてみた。以下では青銅器時代の玉を大きく3つの時期に区分して特徴と意味を概括してみよう。

第I期は青銅器時代の玉製装身具が登場する時期であり、早期～前期前半に該当する。新石器時代にも軟玉製の抉状耳飾などがあるが主に新石器時代早期～前期に属して、青銅器時代の飾玉は大部分青色を呈するが、新石器時代には青色に統一されるような雰囲気は感じられない。したがって現時点では在地の新

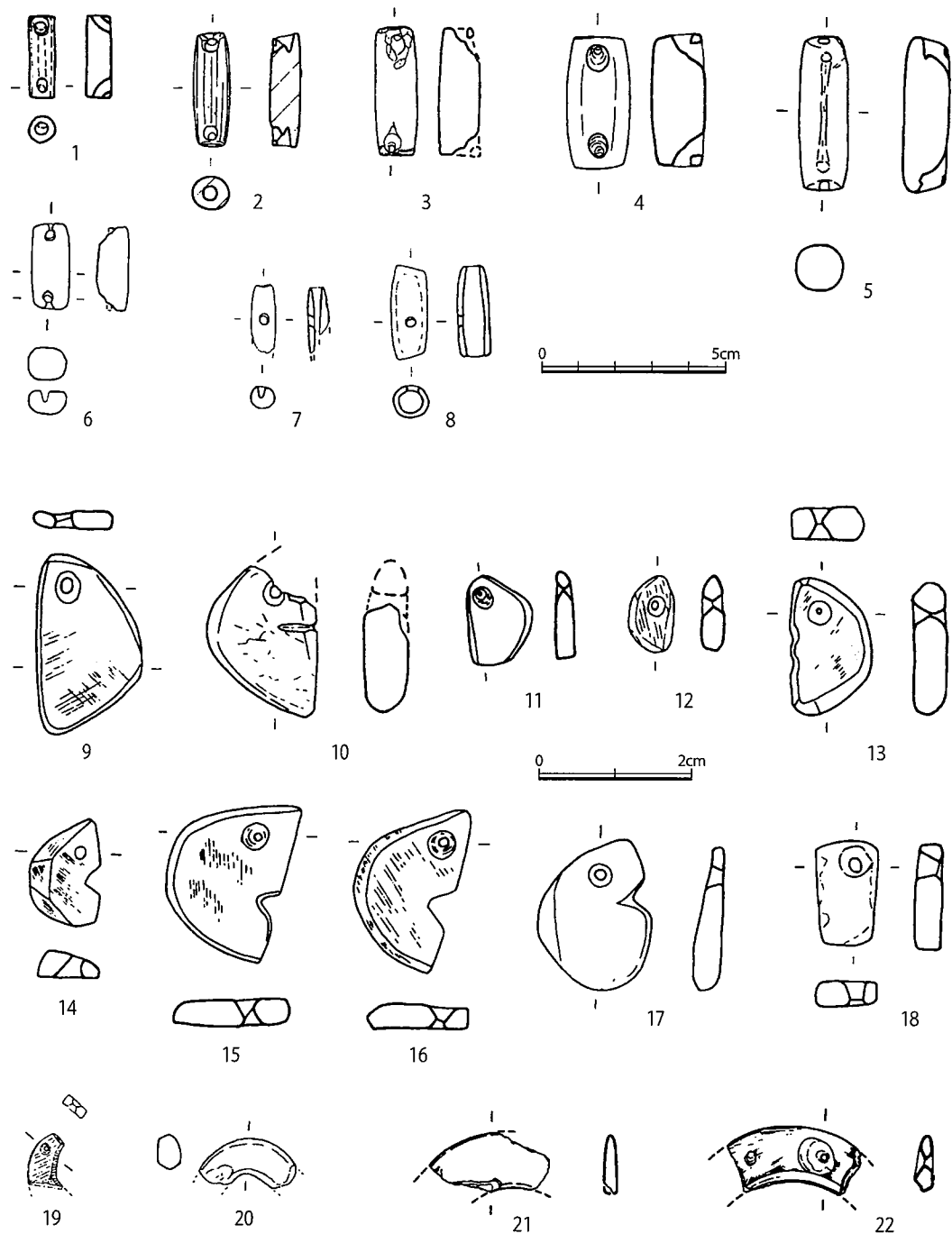


図5 前期の管形玉A・B、長方形玉、半円形玉A・B、半環形玉（5・21は石製、22は貝製）

1. 大邱松峴洞2号住、2. 燕岐松潭里28地点51号住、3. 天安龍井里I-2地区3号住、4. 清州飛下洞8号住、5. 大田龍山洞2地区4号住、6. ソウル高德洞D区域4号住、7. 華川原川里28号住、8. 蔚山九英里V-1地区17号住、9. 春川牛頭洞28号住、10. 華川龍岩里91号住、11. 忠州早洞里3号炉址、12. 華川居礼里22号住、13. 汶山堂洞里4-45号住、14~16. 忠州早洞里7号住、17. 忠州早洞里6号住、18. 華川龍岩里88号住、19. 寧越酒泉里11号住、20. 忠州早洞里9号住、21・22. 洪川哲亭里C-1号住

石器時代から青銅器時代への玉石製装身具の継承性は論じにくい⁽³⁾。

青銅器時代早期は刻目突帯文土器をはじめとした中国東北地域～朝鮮半島西北地域の影響が強調されながら住民の移住あるいは新たな農耕文化の流入といった側面で論じられているが、青銅器時代の飾玉がこの時点から登場するとすれば、これらの地域の影響についても考慮しなければならない。遼寧～吉林地域の新石器時代後期から西周時期の玉は中原地域ほど華麗ではないが、動物の形状を表現したものもあり無文土器社会の玉より多様である（図6・7）。ところでこの地域の玉には管玉と環玉および半環形の玉石

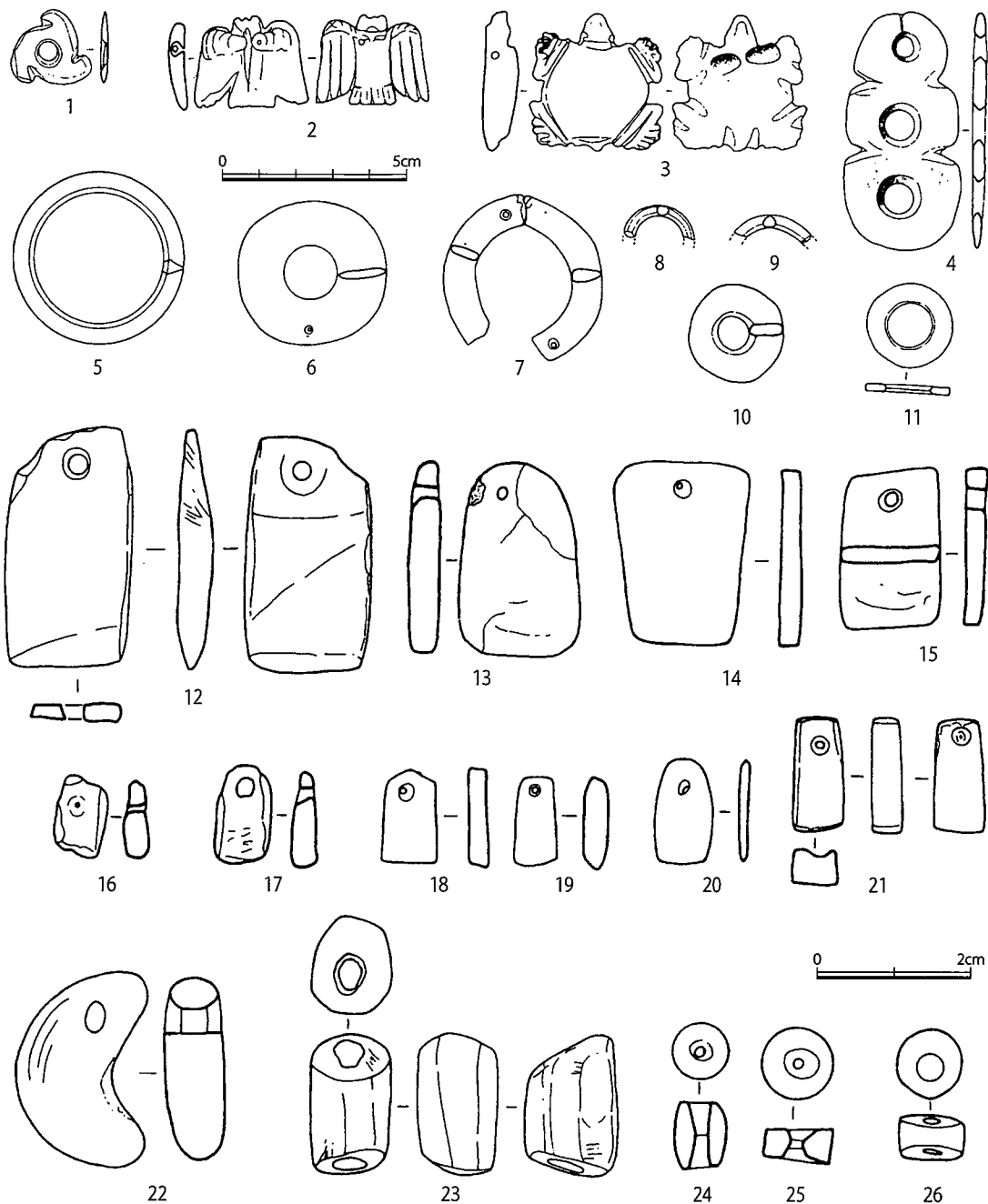


図6 遼寧地域の玉

1・11. 東大山、2. 東山嘴、3～6：喀左和尚溝、7・14・15・20・22・24・25. 郭家村、8・9. 双砬子、10. 玉宝山、12・21・23・26. 文家屯、13. 徐卜、16・17. 北溝、18・19. 腰高台

製品が多数含まれており、朝鮮半島青銅器時代早期～前期の飾玉とも無関係ではないことを思わせ、半環形の玉石製装身具は中国東北地域の強い影響にあるという見解もあった（大坪2003b：427）。

そして先に見た早期～前期前半の玉の中で以後の時期と区分される特徴として長方形玉があった（図1-9・10）。前期の龍岩里遺跡でも出土しているが（図5-18）、早期より発展した形態ではなく、後期には出土せず青銅器時代早期（～前期前半）の特徴的な資料といえる。このような長方形玉が遼寧～吉林地域でも多数確認されている（図6-12～21、図7-4・5）。このような長方形玉は多少単純な形態に仕上げられており、美的形態を志向した曲玉などの玉製装身具とは異なる意味が内包されていた可能性も考えられる。青銅器時代において飾玉が最も発達した後期には見られず、古い時期に典型的な製品が出土するという点で曲玉・管玉・環玉のように着装を目的とする装身具とは異なる機能の製品として検討する必要

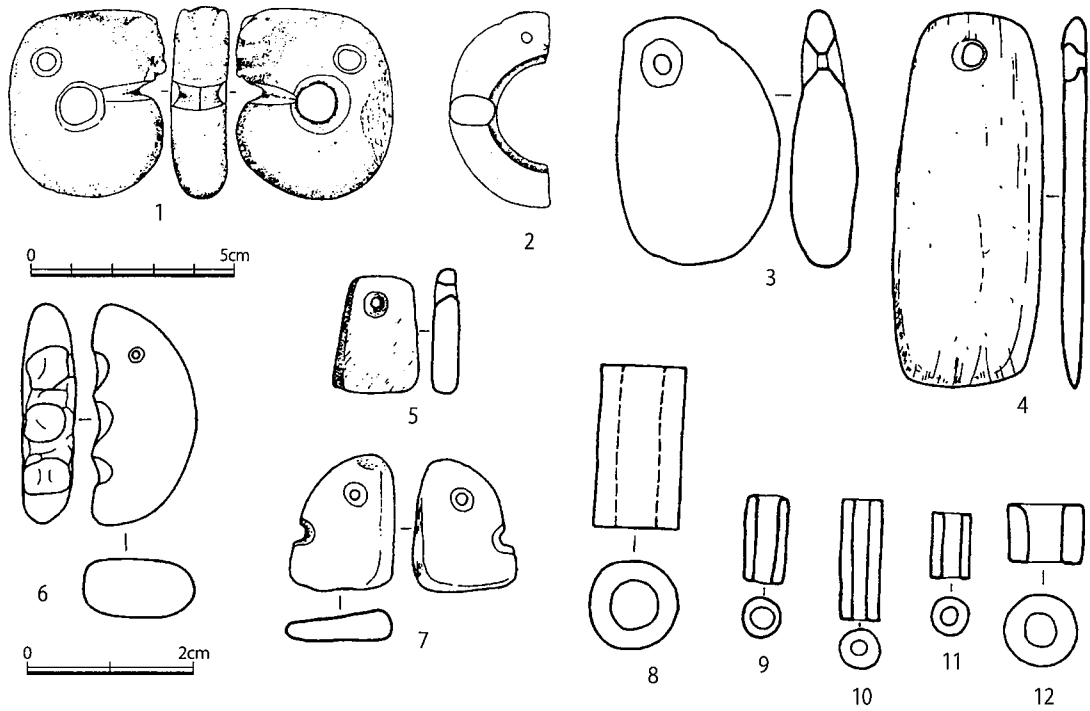


図7 吉林地域の玉

1. 左家山、2・3・10~12. 候石山、4・5. 龍城、6. 紅旗東梁溝、7・9. 狼頭山、8. 長蛇山

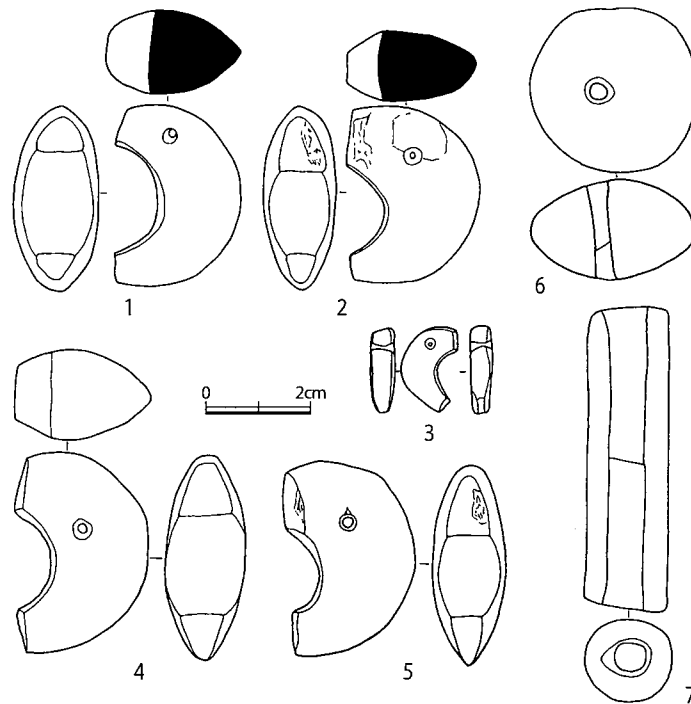


図8 第Ⅲ期の玉

1・2. 松菊里、3. 牛山里内牛、4・5. 烏浦洞、6・7. 平呂洞

もあると考える。

上記のように青銅器時代における玉の出現は在地の新石器時代の装身具よりは早期の標識遺物である刻目突帯文土器などと関連がある中国東北地域の影響である可能性が高い。青銅器時代における玉の機能について装身はもちろん儀礼や呪術、権威や階層の象徴などと理解されているが、第Ⅰ期の玉は権威や階層の象徴よりは朝鮮半島の初期農耕社会を象徴する器物の一つであると理解しておこう。

第Ⅱ期は主に前期後半で第Ⅰ期より数量と種類において圧倒的に多く、管形玉のように中国東北地域や北朝鮮地域では出土しない独特な事例もある。第Ⅰ期の飾玉は大部分住居址から出土するが、表2には墳墓出土事例が10件も確認される。第Ⅱ期は朝鮮半島で墳墓築造が本格化しはじめる時期であるが、住居址など生活空間でのみ出土した玉が新しい習俗の受容によって墳墓にも副葬される(裴眞晟2011・2012)。墳墓に副葬される玉は曲玉・管玉・環玉という青銅器時代の最も代表的な飾玉に限定される(図2)。住居址では飾玉を模倣した石製品もあるが、墳墓副葬品には石製模倣品は採択されず完成品ともいえる典型的な型式が副葬される点で第Ⅰ期の玉とは異なる意味あるいは機能が考慮される。

そして第Ⅱ期には大型の管玉も出土する。管玉が少量出土する場合、それ自体が副葬のための宝器として機能した可能性も想定されている(李1991:173)。先に見たようにすでに前期後半に長さ7~8cm、大きいものは長さ11cmを越える大型管玉が出土しており、これまで松菊里段階でのみ確認されていた大型管玉は第Ⅱ期から登場したことが分かる。

第Ⅰ期の玉が新たに始まる農耕社会の象徴物の一つとして農耕儀礼や呪術と関連するものであるとするならば、第Ⅱ期の玉は墳墓の副葬品として採択され、大型の管玉も登場する点などから権威あるいは階層の象徴物としても機能しはじめたことがうかがえる。同時に第Ⅱ期には飾玉の種類が多様になり形態的に発達する点で玉製装身具の発達期であるといえる。青銅器時代の飾玉の最盛期である松菊里段階の発達した製品の登場は、このような第Ⅱ期の玉文化が基盤として存在したため可能であったのであろう。

次に第Ⅲ期は(先)松菊里段階である後期で、以前と同様に住居址でも出土するが墳墓の副葬品として典型的な形態の飾玉が出土する。形式的に大部分前期の玉とつながるが、特に松菊里(図8-1・2)および烏浦洞(図8-4・5)出土品のように青銅器時代を代表する曲玉は前期後半の曲玉Bから断面が楕円形に近い形態へとさらに造形化したものと見られる。この曲玉を通して松菊里段階を先史時代における飾玉の大きな画期と認識する見解もある(大坪2001・2003b)。

この時期の玉は墳墓副葬品が注目されるが、第Ⅱ期には主に1種類のみ副葬されるのに対し(図2)、第Ⅲ期には曲玉と管玉がセットをなすなど複数の種類が副葬される。第Ⅱ期に続いて銅剣や石剣とともに墳墓に副葬される点で第Ⅲ期の玉は階層を象徴する威勢品としての機能がさらに強化された性格を有している。

以上のように朝鮮半島青銅器時代の玉を段階別に整理したが、農耕社会の象徴物という側面はおそらく第Ⅰ期から第Ⅲ期まで維持されたであろう。第Ⅰ期はそうした性格が強かったとするならば、第Ⅱ期からは青銅器時代社会自体の進展によって権威や階層の象徴品として機能しはじめ、曲玉の発達が目立つ第Ⅲ期になって威勢品としての機能がさらに強化されていく様子を示すことができた。

一方、早期と前期前半に未成品と破片が多数確認されており、第Ⅰ期から集落内で飾玉が製作されたことは明らかである。前期後半には攻玉が本格化していたとするならば(庄田2005:16)、第Ⅲ期には大坪里および黙谷里遺跡といった玉生産の拠点といえるような遺跡が確認されており、第Ⅰ期から第Ⅲ期になると玉生産はさらに活発になったことが分かる。

5. 結語

先史時代の玉は単純な装身具というよりは象徴的な意味を有しつつ精神世界とも関する考古資料の一つである。そして西洋の黄金、東洋の玉として東西の価値観の違いを代弁する物品として論じられるほどである(鄧2006)。

朝鮮半島青銅器時代における玉の出現とその意味を把握するためには中国東北地域はもちろん新石器時代の装身具も含めて広くて多角的な観点と視野からアプローチしなければならないが、ここではそのための事前作業として早期~前期の資料集成とともに時期別特徴を検討した。その結果、新石器時代以後の新たな初期農耕社会を象徴する器物の一つであった玉は前期と後期になると農耕の発達と階層化の進展に

よって威勢品としての機能が強化されていくという展開を示した。今後、青銅器時代の古い時期の玉に対する研究がより活発になって、東北アジア的視角から多様に比較・検討されたならば玉が伝えるメッセージに少しでも近付くことができるのではないかと考える。(韓国 釜山大学校考古学科教授)

【参考文献】(カナダラ順, ※以外は韓国語文献)

- 姜友邦2011「玉龍論と金冠論」『考古学誌』第17輯、国立中央博物館
金良善1972「曲玉源流考」梅山国学散稿、崇田大学校博物館
盧希淑1997『韓国先史玉に対する研究』漢陽大学校大学院碩士學位論文
裴眞晟2011「墳墓築造社会の開始」『韓国考古学報』第80輯、韓国考古学会
裴眞晟2012「清川江以南地域墳墓の出現について」『嶺南考古学』60、嶺南考古学会
李健茂1991「装身具」『日韓交渉の考古学』弥生時代篇、六興出版※
李相吉2002「装身具を通してみた細形銅剣文化期の特徴」『細形銅剣文化の諸問題』、嶺南考古学会・九州考古学会第5回合同考古学大会※
李相吉2006「朝鮮半島の玉作－管玉製作技法を中心に－」『季刊考古学』第94号、雄山閣※
李仁淑1987「韓国先史曲玉に関する小考」『三佛金元龍教授停年退任紀念論叢』I、一志社
李亨源2006「7）泉川里出土玉について」『華城泉川里青銅器時代集落』、韓神大学校博物館
崔恩珠1986「韓国曲玉の研究」『崇実史学』第4輯、崇田大学校史学会
崔鍾圭2000「頭湖里出土天河石製球玉から」『固城頭湖里遺跡』、慶南考古学研究所
韓炳三1976「曲玉の起源」『考古美術』129・130合輯
大坪志子2001「朝鮮半島の石製装身具」『文学部論叢』第73号、熊本大学文学会※
大坪志子2003a『東アジアにおける玉作りに関する基礎的研究』平成13～14年度科学研究費補助金若手研究(B)研究成果報告書※
大坪志子2003b「縄文の玉から弥生の玉へ－朝鮮半島との比較を通して－」『先史学・考古学論究』IV、龍田考古学会※
鄧聡2006「中国の玉文化」『季刊考古学』第94号、雄山閣※
森貞次郎1980「弥生勾玉考」『鏡山猛先生古稀記念古文化論攷』※
西谷正1982「朝鮮先史時代の勾玉」『森貞次郎博士古稀記念古文化論集』上巻※
庄田慎矢2005「玉関連遺物を通してみた晋州大坪集落の分業体制」『嶺南考古学』36、嶺南考古学会
庄田慎矢2006a「朝鮮半島の玉文化」『季刊考古学』第94号、雄山閣※
庄田慎矢2006b「管玉の製作と規格に対する小考」『湖西考古学』第14輯、湖西考古学会
江原文化財研究院2003『拳頭里遺跡発掘調査報告書』
江原文化財研究院2007『龍岩里』
江原文化財研究院2008『洪川外三浦里遺跡』
江原文化財研究院2010『洪川哲亭里Ⅱ遺跡』
江原文化財研究院2011『春川牛頭洞遺跡Ⅰ』
江原文化財研究院2011『旌善アウラジ遺跡』
京畿文化財研究院2009『汶山堂洞里遺跡』
京畿文化財研究院2011『水原好梅実洞・金谷洞遺跡』
慶南考古学研究所2000『固城頭湖里遺跡』
慶南考古学研究所2003『泗川梨琴洞遺跡』
慶熙大学校中央博物館2012『ソウル高德洞遺跡』
慶南文化財研究院2012『晋州平居洞遺跡Ⅲ』
慶南發展研究院歴史文化センター2011『晋州平居3-1地区遺跡』
慶南發展研究院歴史文化センター2012『晋州平居4-1地区遺跡』
啓明大学校博物館2000『慶州隍城洞遺跡Ⅴ』
啓明大学校行素博物館2007『金泉松竹里遺跡Ⅱ』
国立慶州文化財研究所2003『慶州月山里遺跡』
国立中央博物館1995『清堂洞Ⅱ』
畿甸文化財研究院2006『平澤土津里遺跡』
檀国大学校埋蔵文化財研究所2007『義王二洞青銅器遺跡発掘調査報告書』
東国大学校慶州キャンパス博物館2002『大邱松峴洞先史遺跡』
漢沙里先史遺跡発掘調査団1994『漢沙里』第1巻
ソウル大学校博物館1994『漢沙里』第4巻
世宗大学博物館2004『河南望月洞』

聖林文化財研究院2011『浦項大谷里青銅器時代集落遺跡』
 新羅文化遺産研究院2011『慶州汶山里遺跡Ⅱ』
 嶺南文化財研究院2005『清道陳羅里遺跡』
 嶺南文化財研究院2006『慶州月山里山137-1番地遺跡』
 嶺南文化財研究院2008『慶州德泉里遺跡Ⅰ』
 嶺南文化財研究院2010『慶州忠孝洞山156番地遺跡』
 濊貊文化財研究院2010『寧越酒泉里遺跡』
 濊貊文化財研究院2012『東海智興洞遺跡』
 濊貊文化財研究院2013a『華川原川里遺跡』
 濊貊文化財研究院2013b『華川居礼里遺跡』
 蔚山文化財研究院2004『蔚山蓮岩洞山城遺跡』
 蔚山發展研究院文化財センター2007『蔚州九英里遺跡』
 李亨求2001『晋州大里玉房5地区先史遺跡』
 全南文化財研究院2011『羅州老安農工団地造成事業敷地内文化遺跡発掘調査略式報告書』
 中央文化財研究院2008『大田龍山・塔立洞遺跡』
 中原文化財研究院2007『安城盤諸里遺跡』
 中原文化財研究院2008『清州飛下洞遺跡Ⅱ』
 忠北大学校博物館2001『忠州早洞里先史遺跡（Ⅰ）』
 忠清南道歴史文化研究院2012『燕岐大坪里遺跡』
 忠清文化財研究院2008『舒川烏石里遺跡』
 忠清文化財研究院2008『天安龍井里遺跡』
 忠清文化財研究院2010『洪城南長里遺跡』
 忠清文化財研究院2011『牙山鳴岩里遺跡（12地点）』
 ハンギョレ文化財研究院2012『山清挹清亭敷地および周辺敷地（江縷地区）遺跡』
 韓国考古環境研究所2010『燕岐松潭里・松院里遺跡』
 韓国考古環境研究所2010『燕岐大坪里遺跡』
 韓国文物研究院2012『晋州草田環壕集落遺跡』
 翰林大学校博物館2003『春川新梅大橋敷地文化遺跡発掘調査報告書』
 韓神大学校博物館2006『華城泉川里青銅器時代集落』
 漢陽大学校博物館1996『富川古康洞先史遺跡発掘調査報告書』
 ハノル文化遺産研究院2010『廣州市駅洞e-ピョナンセサンアパート新築敷地内遺跡（カ・マ地点）文化財発掘調査1次指導委員会資料』

（原文：裊眞晟2013「青銅器時代玉の出現と展開－早期～前期を中心に－」『韓国の先史・古代玉文化研究』福泉博物館学術研究叢書第38冊、福泉博物館、P.111～134）

【訳註】

（1）韓国考古学では「勾玉」という用語は用いず、「曲玉」と表記している。本稿の研究対象資料が朝鮮半島の玉製装身具であるため、翻訳文では全て「曲玉」に統一した。

【註】

- （1）一方、美術史における曲玉に対する解釈も注目に値する。姜友邦は曲玉を玉龍と呼び韓国の造形美術に対する通時代的理解と東洋の宇宙生成論などに対する理解が先行してこそ曲玉の象徴的な意味が解決できるとした（姜2011）。しかし、彼の理論は主に三国時代の金冠をはじめとした華麗な装身具に付いた曲玉が主な対象であり、先史時代のものとして扱われた住岩ダム水没地区4号支石墓の子持曲玉は支石墓の周囲で三国時代の土器片とともに取捨されたものである。玉龍論自体は非常に根拠と論理を備えた理論であることに違いはないが、この子持曲玉は青銅器時代ではなく三国時代の遺物である可能性が高いために三国時代の玉龍論として傾聴したい。
- （2）一方、安城盤諸里遺跡12号住居址で円形粘土帯土器片と共に出土した事例がある。この住居址は廃棄過程で床面が流失し一部のみ確認されたとし、出土遺物も西側の斜面から出土した点などをみると（中原文化財研究院2007：72）、円形粘土帯土器段階の玉であると断定しにくい状況がある。
- （3）一時、新石器時代の動物の歯牙に穴をあけた装身具を形態的な類似性から青銅器時代の曲玉の起源と関連させる見解もある（西谷1982、崔1986）。しかし、材料自体が異なり形態的にもつながら可能性は高くないと指摘されている（李1987、李2002、大坪2003、庄田2006a）。

